

柱の説明書きに対するご意見

柱ごとに各柱の位置付けや施策達成の目的・意義を掲げる基本説明を検討しましたので、ご確認をお願いいたします

柱単位での基本説明

※委員の皆様のご意見を踏まえ、一部書きぶりを変更しております。変更後の記載は素案をご覧ください

柱1：学校教育の充実

急激に変化する時代の中で、学校教育には、一人一人の児童・生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められています。市は、知・徳・体をバランスよく確実に育成すること、また、その育成を支えるための教育環境、支援環境を整備していくこと等を進めることで、求められる学校教育の実現を図ります。

柱2：地域による子どもの育ちと学びの支援

地域社会における子どもたちの成長を支えるため、学校と地域の連携・協働が求められています。また、少子化や家庭環境の変化、地域コミュニティの希薄化といった社会課題に対応し、子どもたちが心身共に健やかに成長し、安心して学び育つ環境を整えることが重要です。市は、地域による子どもの育ちと学びの支援を推進し、地域と学校が協力して体験活動や探究的な学びを充実させるとともに、子どもたちの安全な居場所を確保し、多様な人々との関わりを通じて社会性や人間性を育む仕組みづくりを目指します。学校と地域が一体となり、地域全体で子どもたちを見守り育む環境の実現を目指します。

柱3：生涯学習・文化・芸術・スポーツの支援

人生100年時代を迎え、生涯を通じて主体的に学び続け、文化・芸術活動やスポーツに親しむことで、健康で心豊かな市民生活を実現することが求められています。市は、幅広い世代の市民が意欲的に学べる機会や、気軽に地域文化やスポーツ活動に親しむ機会を充実させるとともに、活動を通じた市民同士の交流やつながりを促進します。また、市民が学びや活動で得た知識や技能を地域社会に活かす取り組みを支援し、地域の活力向上を図ります。

2-1. 次期計画（第3次清瀬市教育振興基本計画）の基本構想に対するご意見

柱1（学校教育の充実）の説明書きに対する意見一覧（要約）

- 親子が豊かな人生を切り開くためには、失敗を経験し、それを分析して対策を考えることが重要。しかし、多くの家庭では失敗を悪いことと捉える傾向がある。
- 柱の概要説明は分かりやすく、学校教育の充実が3本柱の基盤となっている。学校は、子どもが大人になるための心の準備をする場である。施策推進の5つの方向性の中で育った子どもが、教育や支援環境の整備に関わることで、自らの生活環境も整えられることが期待できる。第1の柱は、第2・第3の柱と相互補完の関係にあり、次期計画にその位置付けが分かるようにまとめていきたい。
- 「確実に育成する」という表現は堅すぎるため、「堅実に育成する」など、より柔らかい表現が適していると考える。
- 文章が長い点は否めないが、学校教育の役割を考えるとやむを得ない面もあり、内容は優れていると評価できる。
- 「一人ひとりが自分の良さや可能性を認識する」という表現について、次の2点が気になる。
 - ①「良さ」とは誰が判断するのか。学校教育では教員目線で「良い子」とされる可能性がある。
 - ②自分の得意・苦手や長所・短所をそのまま受け入れる「自己受容」が重要であり、そのような自己理解が他者を尊重することにつながると考える。

2-1. 次期計画（第3次清瀬市教育振興基本計画）の基本構想に対するご意見

柱2（地域による子どもの育ちと学びの支援）の説明書きに対する意見一覧（要約）

- 学校と地域が一体となるには、教員の語ることを地域が解説し、地域が語ることを教員が解説する関係が必要。
- 第2の柱における施策推進の方向性No7とNo8はコミュニティ・スクールの全校実施、具体的な居場所づくりを充実させることで成果を確認することができると思います。No6“機運を高める”ための具体的方策を全市民で知恵を出し合い、「まずやってみよう」という声から始め、子どもの成長とともに大人の生きがいを実感できる仕組みづくりを目指したい。市民のやる気と意欲を引き出すきっかけとして「子どもの成長」に焦点を当てている概要説明になっていると思う。
- 大人の積極的な地域参加を促す文面が入っても良いのではないか。
- 子どもが育つためには、子どもとの間での遊びや、休息、文化芸術活動への参加など発達成長に不可欠と言われている。そのことを明確に意識して、学校外での遊びの場の保障（居場所の確保や多様な活動を可能とする活動センターの提供）を追求するべき。
- 「子供」と「子ども」の表記が他の資料も含めて混在しているので揃えるべき。
- 柱2の主旨について、特に気になる点はない。一点、「…多様な人々との関わりを通じて社会性や人間性を育む仕組みづくりを目指します」という部分が、「仕組みづくりを目指します」ではなく、「仕組みづくりを進めます（or…を推進します、…に取り組みます等）」という方が表現としては適切ではないか。

2-1. 次期計画（第3次清瀬市教育振興基本計画）の基本構想に対するご意見

柱3（生涯学習・文化・芸術・スポーツの推進）の説明書きに対する意見一覧（要約）

- 第3の柱は昔子どもだった大人が主語になっている。全市民が生涯を通じて学び続ける姿を手本として子どもたちに示すことができる街づくりを目指すというメッセージが伝わる概要説明になっていると考える。
- 生涯健康で学び続けることを求められていると思うと疲れてしまう。・・が「求められています」を、・・が「望まれています」と修正してはどうか。
- 市民同士の交流やつながりが深化しないのは、ボランティアネットワーキングがうまく組織化されないことが原因であり、そのために市民活動の停滞を招いているのが実際だと考える。教育のサイドではこの書きぶりでやむを得ないと考えるが、市民活動の支援が市長部局のコミュニティ政策の中で書かれているとすれば、それとの整合を図る旨書き加えてほしい。また、地域の活力向上とは具体的にはどういうことかもっとやさしい表現で記述していただけたとありがたい。
- 冒頭の文章「人生100年時代を迎える、生涯を通じて主体的に学び続け、文化・芸術活動やスポーツに親しむことで、健康で心豊かな市民生活を実現することが求められています」について、主語がない点、それにより、誰が誰に対して「求めて」いるのか、「健康で心豊かな市民生活を実現する」のは誰なのか曖昧になっている点が気になった。
- また、（国に？時代状況に？）求められているからしないといけないではなく、生涯を通じて主体的に学び続けること、文化・芸術活動やスポーツに親しむことが、一人一人のウェルビーイングの向上を実現するから、市がその環境づくりに取り組むという流れの方が、市民の立場から受け入れやすいのではないか。
※ウェルビーイングだと分かりにくいかもしれないため、たとえば「他者とともに、健康で心豊かな生活を送る」など表現の工夫は必要。

柱・方向性の骨子に対するご意見

2-2. 次期計画（第3次清瀬市教育振興基本計画）の基本構想に対するご意見

柱1（学校教育の充実）の骨子に対する意見一覧（要約）

- 学校教育の最前線に立つ教員の能力と資質向上が必須であり、優秀な人材の確保、人材育成が求められている。学校の軸が確かなものであることが第2の柱、地域による学びの支援を受け入れたり、効果的に活用したりするために重要。学校による発信と受信によって「子どもたちの成長を地域で支える機運」が高まることが期待できると考える。
- 学力の向上は教育の質の向上＝教師の教育力の向上が基本。働きバチのように働いていては教師が疲弊してしまう。授業の内容を工夫する時間を確保できるよう、教師自らが課題探究できるよう、余裕をもった生活を送ることが重要。そのことを大前提とした学校教育の充実策を講じて行っていただきたい。
- 教育のDX化を背景に、清瀬の学校教育として何をどう充実させていくかについて触れなくてもよいか。

2-2. 次期計画（第3次清瀬市教育振興基本計画）の基本構想に対するご意見

柱2（地域による子どもの育ちと学びの支援）の骨子に対する意見一覧（要約）

- 第2の柱の中心的な存在がコミュニティ・スクールだと捉えている。「清瀬市のコミュニティ・スクール」の仕組みを表した図は分かりやすく市民の理解を深めることができるもの。10年後には、文部科学省「地域と学校の協働体制の概要」図にある「地域学校協働本部」の設立が実現できるといふと考える。
- 家庭は人格が形成されていく過程で重要な基礎の1つと思う。地域がとても重要なのはわかるが、衣食住を共にする家庭はより大切。学校、地域、家庭、と「家庭」という表現も入れてほしい。
- 個人の原子化（バラバラな個人）が進み切った現在、地域社会で子どもの育ちを支えることは異論ないが、親たちのネットワークで子どもの育ちと学びの支援をしようという気風が全く感じられない。校外活動や放課後のスポーツ、芸術などの行政が支援する方策は必要だが、親たちが関わること（共働きで難しいことは承知のうえですが夏休みや冬休み春休みもある）がまず必要ではないか。子どもに関わろう、子どもの遊びを支えようという考え方を親たちが互いに学びあうことが重要。

2-2. 次期計画（第3次清瀬市教育振興基本計画）の基本構想に対するご意見

柱3（生涯学習・文化・芸術・スポーツの推進）の骨子に対する意見一覧（要約）

- 清瀬市からの情報発信メールはHPや市報に加え、市の施策や基本構想の具体的な取り組み、また、防犯、防災面でもリアルタイムに役立っている。市民が活動する場の整備をさらに進め、文化・芸術・スポーツなどの企画参加者が増えることを期待したい。
- 学校が進学のための施設と化している。せっかく同世代の子ども同士が人間関係を紡いでいくことができる条件があり、スポーツや芸術において同好の志のなかで活動できるチャンスを失っている。野球、テニス、バスケット、卓球、フェンシング、陸上、相撲、レスリング、サッカー、音楽、絵画、園芸、陶器等に親しみ、オール清瀬でそれらの活動に従事できる環境（指導者と場）を提供することが行政や親たち（地域社会）の責任ではないかと考える。その点を事務事業に明確に書いてほしい。

基本理念のこめられた思いに対するご意見

「学びと育ちの循環型社会」や「地域を基盤としたコミュニティづくり」等、基本理念の基になった要素は残しつつ、社会・教育環境の変化を踏まえて「こめられた思い」は見直します

こめられた思い

※委員の皆様のご意見を踏まえ、一部書きぶりを変更しております。変更後の記載は素案をご覧ください

第2次教育マスターplan

- 市民が相互に教え合い、伝え合うことによって学びを深めることによる学びと育ちの循環型社会を目指すこと
- 地域を基盤としたコミュニティづくりを推進し、清瀬の教育を支えていくこと
- 学校・家庭・地域・行政が自立し役割分担のもと責任を果たしていくこと
- 清瀬が誇る地域資源（ヒト・モノ）を活かすことにより、郷土に対する愛着を醸成すること

変更案

- 市民が相互に教え合い、伝え合うことによって学ぶを深めることによる学びと育ちの循環型社会を目指すこと
※変更なし
- 年齢や障害の有無にかかわらず、すべての人が安心して自由に学べる、誰一人取り残さない学びの環境を整備すること
※年齢や障害の有無にかかわらず、すべての人に公平に教育機会を提供するという要素を追加
- 地域コミュニティを基盤に、デジタル技術も活用しながら学校・家庭・地域・行政が相互に連携し、地域全体で子供を育む仕組みを強化すること
※学校・家庭・地域・行政が「役割分担」ではなく連携して推進していくという要素を追加
- 未来を担う子供の教育と、現在の社会や子供を支える大人の学びの両方を重視し、市全体で学びを育んでいくこと
※子供の教育とともに生涯学習も重要であるという要素を追加

子供が育つ 市民が育つ まちも育つ 清瀬の教育

3. 基本理念のこめられた思いに対するご意見

意見一覧（要約）

- 循環型社会の理念に賛成です。（誤字）学ぶを⇒学びを
- 「誰一人取り残さない」という否定的表現よりは、方向性4「めざすべき姿の実現に向けた施策推進の方向性」で使っている「一人ひとりのニーズに応じた」学びの環境を整備すること。と変更するはどうか。
- 「市全体で学びの文化を育んでいくこと」と“文化”という言葉を追加したらどうか。
- 地域コミュニティを基盤に
⇒「コミュニティ」という表現は抽象的であるため使わないほうがよいのではないか。「地域の人々が」としてはどうか。
- 「デジタル技術も活用しながら」
⇒スマホを使いながらということか。DXもそうですが誰が読んでもわかる文言を使うべき。
- 未来を担う子どもの教育と、現在の社会や子どもを支える大人の学びの両方を重視し、
⇒重視しなければならないものか。当然のことを書いたほうがよいのか。「子どももおとなもともに学びあい、自己実現の追求に喜びを感じ（称え）あえるまち、教育都市「きよせ」の実現をめざす」はどうか。
- 市全体で学びを育んでいくこと
⇒学びを育む（＝発達成長させる）ということを市全体で行うと言う必要があるのか。少なくとも市（＝清瀬市）という狭い見方は取らないほうがよいのでは。そのようなまちとして、教育都市「きよせ」が実現できればよいし、そのような意味で教育都市「きよせ」がわかりやすいのではないかと考える。